

今月のことば

ひとつの
からだに
かうだに
ふたつの
あたま
極楽のとり
共命鳥

(「かるた48—仏さまのおこころ—」より)

龍谷大学非常勤講師

小池秀章

こいけひであき

「ひとつのからだに ふたつのあたま 極楽のとり 共命鳥」
これは、「かるた48—仏さまのおこころ—」の『ひ』の札の言葉です。『ひ』の読み札の裏面には、次のような解説文が載っています。

「仏說阿彌陀經」というお經には、極樂淨土に共命鳥という仏さまの教えを説く鳥がいると説かれています。身体は一つで、頭が二つに分かれている鳥で、まさに命を共有している鳥です。また、別のお經には、「二つの頭は仲が悪く、相手を苦しめようとして毒の実を食べさせたけれど、体が一つなので、結局一緒に死んでしまったとあります。ともに『私たちのいのちは、一つに繋がっている』ということを教えてくれます（小池執筆）」。

仏さまの教えの中に、「自他一如」という言葉があります。「自分」と他が一つの如し」つまり、すべてのものが繋がり合っていて、自分と他のものは切り離せないという意味です。そのことは同時に、「他のものと切り離した自分は、ありえない（存在できない）」ということを意味しています。

他との繋がりの中で、初めて自分も存在しているわけですか
ら、他を傷つけるということは、実は、自分を傷つけていると
いうことでもあるのです。

私たちにそのことを気づかせるために、共命鳥は、お淨土で
鳴き続けて（教えを説き続けて）いるのです。お淨土からの声
に耳を傾けましょう。

合掌